

発行所

静岡県高等学校障害児学校教職員組合
〒420-0004 静岡市葵区末広町1-4
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyousho.jp/
e-Mail info@s-koukyousho.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814
Facebook:「静岡高教組」で検索

第498号

2024年

6月21日

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、
全教職員に配布しています

あなたも 高教組へ

2面・国民平和進行



「このままでは学校がもたない」 中教審「審議のまとめ」では長時間労働は解消しない

全日本教職員組合 声明

5月13日、中央教育審議会「質の高い教師の確保特別部会」が開催され、「審議のまとめ」を発表しました。しかしこれでは、長時間労働と教職員未配置は解消しません。全国の教職員、教育関係者の願いに応えていません。

全教は、教職員の増員、教育予算増、時間外勤務に対する手当支給を可能とする給特法改正を実現するためにたたかう決意を表明し、声明を發しました。

この「まとめ」は、先の自民党特命委員会が提言した内容と何ら変わらなず、全国の教職員、教育関係者に失望が広がりました。中心課題は、長時間労働と教職員未配置の解消のための施策であつたはず。「まとめ」は問題だらけです。

問題1 「定額働かせ放題」はそのままで
長時間労働に歯止めをかけるためには、超過勤務手当を支給できるように給特法を抜本的に改正することが必要です。教職員には原則として時間外勤務を命じることはなく、

「まとめ」は現在4%の教職調整額の率を「10%以上にすることが必要で

ある」と述べますが、増額は、いっそうの長時間労働を強いることになりかねません。

問題2 教職員の大幅増員を否定
長時間労働解消のためには業務に見合った教職員の増員と業務量の削減が必要で、そのためには義務標準法の「乗ずる数」を改善し、基礎定数増につなげる法改正と持ち授業時数の軽減が必要で

す。しかし「まとめ」は、教職員を増やすことについて、「乗ずる数」を削減した当時の勤務時間の半分は授業時数残り半分は準備を含めた校務に充てるという割合は、現在においてもおおむね同水準」と述べても、「基礎定数を増やしても持ち授業時数の減少のためには用いられない可能性がある」として、加配定数増にとどめました。安定した学校運営と教職員の任用につながる基礎定数増を先送りしたことで、持ち授業時数の軽減に直結する標準授業時数の見直しを今後の検討課題としたことは、学校現場の切実な願いを裏切るものです。

問題3 教師のチームワークにびびが!
学級担任手当の新設と、教諭と主幹教諭の間に「新たな職」を設け、新たな給料表を設けることは、処遇改善の名のもとに、人

事での騒音などに対する聴覚過敏や衝動性のある子などの反応、発災後の救助の困難などへ不安が寄せられました。さらに、南海トラフ巨大地震津波浸水想定区域で、誘導区域からも除外され、教育関係や障害者の

全に設置できる地形、地質及び地盤であること」と書かれていることをあげ、安全な場所への移転を引き続き模索してほしいと要請がありました。

地元自治会からは、防潮堤や水門工事で不安は減少しているものの危険を強調されると住民として不安にはなるが、移転もやむを得ないと考える、地域交流等につながってきたので残念だが、という趣旨の発言がありました。

適切な広さの校地取得については全国でも有数の大規模校の解消も含めて、小規模にして分散することも視野に入れ、引き続き、安全な場所への移転の模索を求め、子どもたちの安全安心を守るべき教育関係者の責任であると考えます。

この「性被害防止事業」については、未周知の学校にもあるようです。

寄宿舎の問題
寄宿舎指導員の定数、「最低保障1校当たり12人」「舎生の人数に合わせ」とあるが実態は4.5

教師の長時間労働と教職員不足の解消を！
このような「まとめ」では、教職員の長時間労働も未配置も解消できません。教職を希望する学生も増えないでしょう。中教審の責任は重大です。全教は6月1日を軸に全国各地で一斉街頭宣伝活動をおこないました。静岡高教組も、「まとめ」批判のバブルックコメントや宣伝活動にとりくみ、問題点と限界を広く明らかにしていきます。

主張

5月31日に県教委から「浜松特別支援学校老朽化対策事業及び土壌調査実施に係る説明会」が、保護者、教職員、そして地元自治会住民関係者向けに行われ、現在の場所に着替へるとなった経緯と土壌調査に関する説明がありました。

2011年の東日本大震災の後、PTAからも要望があり移転を検討。広さ、通学の便、水害など危険のない場所という条件で探したが、適切な校地が見つかず断念。1977年建設で耐震補強はしているが老朽化対策が必要。結論としてこの場所

に建て替えを決定。昭和30年代に一般廃棄物の最終処分場だった土地なので2023年度に土壌調査を実施。グラウンドや学校周辺3か所を掘削調査したところ、地下1.5mの廃棄物層において安全基準以上のヒ素・フッ素が測定され、基準

利用開始は令和11年4月の予定だったが令和13(2021)年4月になる見込みと説明。質疑に対する応答で、移転先として検討した候補地と断念した理由を紹介。遠州浜団地は、津波浸水想定区域のため不適。高砂小学校の跡

地については、特別支援学校敷地は2万㎡が基準だが浜松は約16万㎡、高砂小跡地1万㎡と狭いため不適。浜松聴覚特支は土砂災害危険区域のため不適。

関係者からは、教育活動と並行しての建設工

通園施設等は建てられないこととなっている。静岡県特別支援学校施設整備規程にも、校地の選定基準の第に「地震津波、土砂災害等の様々な災害に対して、できるだけ安全な場所であり、建物、屋外運動施設等を安

課長は「セクハラアンケートは小5から実施。言葉での聞き取りなので、障害のある児童からの聞き取りは不十分な面もある。小・特支対象に性被害防止事業として、パーション設置などを進めている」と回答。

この「性被害防止事業」については、未周知の学校にもあるようです。

課長は「セクハラアンケートは小5から実施。言葉での聞き取りなので、障害のある児童からの聞き取りは不十分な面もある。小・特支対象に性被害防止事業として、パーション設置などを進めている」と回答。

不適当。表層の土壌は基準に適合しており、通常の学校活動への影響はないが、法に基づく土壌調査を実施する。今年度6月から地歴調査、試料採取分析後、2025年3月に対策を検討。建て替え後の新校舎の

地については、特別支援学校敷地は2万㎡が基準だが浜松は約16万㎡、高砂小跡地1万㎡と狭いため不適。浜松聴覚特支は土砂災害危険区域のため不適。

関係者からは、教育活動と並行しての建設工

通園施設等は建てられないこととなっている。静岡県特別支援学校施設整備規程にも、校地の選定基準の第に「地震津波、土砂災害等の様々な災害に対して、できるだけ安全な場所であり、建物、屋外運動施設等を安

課長は「セクハラアンケートは小5から実施。言葉での聞き取りなので、障害のある児童からの聞き取りは不十分な面もある。小・特支対象に性被害防止事業として、パーション設置などを進めている」と回答。

この「性被害防止事業」については、未周知の学校にもあるようです。

課長は「セクハラアンケートは小5から実施。言葉での聞き取りなので、障害のある児童からの聞き取りは不十分な面もある。小・特支対象に性被害防止事業として、パーション設置などを進めている」と回答。

課長は「セクハラアンケートは小5から実施。言葉での聞き取りなので、障害のある児童からの聞き取りは不十分な面もある。小・特支対象に性被害防止事業として、パーション設置などを進めている」と回答。

視座

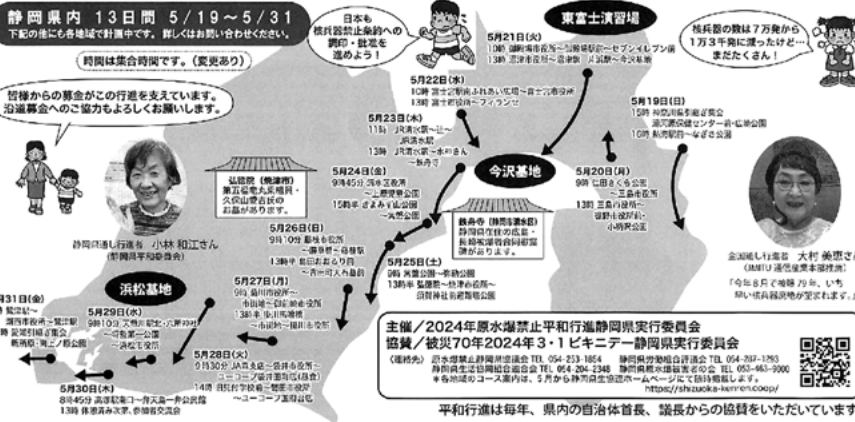
The sky is the limit. 空が限界、つまり、限界がない。勤務校の文化祭の生徒には、これから、何にだってなれます。日々学び、日々成長し、ちよつとつらやましくなつてしまいます。定年まで教師を続けようと思つていますが、ふと、そこに限界を感じてしまいました。さらに、もしかししたら、限界のないはずの生徒に、限界を感じさせていませんか。心配にもなつてきました。百点満点のテストを作り、満点をとる生徒など減多にないで、教師の作る模範解答の満点から引き算することが採点で、それをもとに評価を付けます。しかし、もし才能のある生徒だったら、教師の用意した百点では足りないかも知れません。百点満点のテストではなく、教師が教えた二十点か三十点をもとに、どれだけ知識を積み上げ、思考を深められるか、そんな足算のテストもいかにありません。天才が掛け算して百点を桁違いに超えていくこともあるかも知れません。▼理不尽なことでも我慢しろ。精神力が強くなり、この先どんなことがあつても我慢できる。そんな昭和な教育を受けてきました。でも、その我慢の先に何があつたのでしょうか。▼昭和が終わわり、平成を駆け抜け、令和も六年。意味のあることを、楽しく、効率よくこなす。それが令和のスタイルなのかもしれません。それでもやはり、人生で時に我慢は必要です。ただ、我慢の先に見える目標が見えなくなつては、ただ教師に従い我慢しろ、これでハラスメントになりかねません。▼生徒は、何かになるために、学校に来ます。そのために、努力をします。教師も何かになるために、生徒とともにがんばつてもいいのかもしれない。人生は長く、我々には限界はないのですから！

核兵器のない平和で公正な世界を 国民平和大行進

島田で高校生が平和の「語り継ぎ部」の活動

戦争も核兵器もない平和で公正な世界を！ 2024年原水爆禁止平和行進にみんなで参加しましょう！

平和行進は1958年に始まり、今年で67回目を迎えます。毎年第五福竜丸展示館のある東京・夢の島を出発し、5月19日静岡県に入り13日間県内を歩きます。核兵器の廃絶をめざし、「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニをくりかえすな！」の声を大きく広げ、8月の広島・長崎で開催される原水爆禁止世界大会の成功を呼びかけながら歩きます。一歩でも二歩でも一緒に歩きましょう。



島田空襲 明日まで続く物語 島田にも模擬原爆が

今から36年前の1988年、島田学園高校の先輩たちが、島田空襲の体験を聞くために被災者に集まってもらいました。「この子たちにならあの忌まわしい体験を語れる」と言ってくれて、はじめは孫に語りかけるように優しく、やがて40年の封印が解かれ、涙を流し当時の傷口を見せながら、お話は留まることがありませんでした。「ああ…私たちの話は、明日の朝まで続いてしまいます…」と。

被災者のお話し(当時の方言のまま)
「押しつぶされそうで息ん苦しくて、パチパチする音で気がつきました。足が木材に挟まれて動きません。ちいっとしたら父ちゃんが来てくれて、なたをふるって助けてくれました。左足はざくろのようにはせて歩けませんでした。父ちゃんは、『まだ母ちゃんと哲也も埋まってる。助けにやらんで病院に連れてけん。一人でけ行け』と言いました。その父ちゃんの左足の膝にも両肩にも背中にも爆弾の破片が突き刺さってました。」

「だんだん家のそばへ来ると、白壁にまみれたばらばらの手とか足とかん、あっちこっちに転がっているのが見えたよ。うちへ着くと、はあ、なんにも無くなっていて誰んれもいず、ウロウロしてたら、『あんたっちゃんかみさんや子どもらん遺骸は病院にあるで』って聞かされて。私ん家は、私以外、全員、…死んだです。」

「次の日、死骸を焼き場へ運びました。母さんのはバラバラなっちゃって…手と足と胴体とで、首なんか、わからんけ…」

1945年7月26日午前8時半ころ、B29が投下した一発の大型爆弾は、島田扇町普門庵門前に落下し、即死者33名、重症で亡くなった人14名、負傷者150名、全半壊家屋450余りという甚大な被害をもたらしました。この日、島田以外にも浜松と焼津に特殊爆弾が投下されました。この島田空襲の11日後、8月6日、広島に一発目の原子爆弾が投下されました。その3日後、長崎にも2発目が…

そう、この島田に落とされた爆弾は、長崎に落とされた『長崎型ブルトニウム原子爆弾ファットマン』と同じ形・同じ重量の爆弾だったのです。本物の原爆を落とす訓練のため、『模擬原爆』を落としていたのです。本物の原爆を正確に目標に落とし、なおかつ、最大の殺傷能力を発揮するため。そして、落としたB29がその爆風から安全に逃げるために。島田はその練習台にされたのです。広島では14万人。その三日後、長崎では7万人。合わせて21万人の人々が殺されました。

「地面にやあまだ人間の腸のような血がシミになって残ってました。ふと、焼け残っていたムクの木に目をやると、ああっ！小さな子どもの頭が、枝に引っ掛かって、そのまんまになってました。」

「ある日、バラックの前を通った中年の男が、『ええっけなあ。島田の目抜きんとこなら大変だっけ。扇町だでええっけなあ』と言いました。確かにそうかも知れない。だけど被災者の前での言葉としちゃあひどく腹立たしく…私ゃあ歯を食いしばりました。」

「後片付けをしてる時に、見にくる人っちの、『私んとこじゃあなくてええっけよお』という言葉に、情けなくて涙こぼれました。」

「古いトタンで囲った小屋あ雨の日にああ水浸しでした。それは10年近くも続き、自分らの家族だけなせこんな暮らしを、と思うと、情けなくて、やり切れんくて…。みじめな暮らしをしてえると、人の心あ、ねじ曲がってしまうようです。幸せそうな人お見ると、無性に腹が立つのあ、どうしようもありませんでした。」

たいへんな苦労をしましたが、被災した人々は、人間としての自分を見失うことはありませんでした。一生懸命、生きて、生きて、生き抜いて、若い私たちに戦争を考える、思いのバトンを託して下さいました。

「人の幸せをねたんだり、憎しみよう持ったりするっちゅうのは、よこしまな恐ろしい心です。あたしにいつそんな悪魔ん、住みついただか！この戦争は、私の心と体にこんなにも大きい爪痕を残したです。」

「この日本の国にああ私んみたいな境遇の人ん、たあつくさんいたことだら。日本だけじゃなっご、中国や東南アジアの国にも、どんだけたくさんのお衆が、深い悲しみや憤りに明け暮れたことだか。あたしあ、人あ憎みません…。戦争を…戦争を、憎みます。」

1945年8月6日広島、9日長崎に原爆が投下され、1954年3月ヒキナ環礁でのアメリカによる水爆実験で多くの日本漁船やマーシャル諸島の人々が被ばく。1958年、広島から一人の僧侶(西本あつし)が原水爆禁止を訴えながら歩き始めると、沿道では小旗がふられ、窓からは紙吹雪が舞い、日に日に共感が広がり、8月に東京に到着するときは1万人をこえる大行進となりました。翌年から、全国各地から広島に集結するコースが設定され、1000万人以上が参加する大行進になり、今年で67回を迎えました。



5月19日に神奈川県から静岡県内に引き継がれ、5月25日(土)に焼津、26日(日)は藤枝・島田・吉田を進行しました。焼津では第五福竜丸乗組員の久保山愛吉さんが眠る弘徳院を墓参し、船が係留されていた焼津港などを巡りながら、ビキニ水爆実験被災について改めて学習しました。

藤枝では、通し行進者の大村美恵さんが、夫が被爆二世であったためか、生後3時間で亡くなったメルちゃんへの手紙を紹介。

メルちゃんへ
天国で楽しく過ごしていませんか。今日は放射能の話を書きます。放射能を大量に浴びた人の身体には、残留放射能がずっととどまりま

た。ところが、ただ悲しみをもちたすだけだった存在のあなたが、ある日から、うか、あなたの存在は世の中のためになっているんだ、私はうれしくて、う

午後からは島田。島田樟誠高校演劇部員が一緒に歩き、島田空襲の犠牲者47人の名が刻まれている「平和の礎(いしづえ)」のある扇町公園で、「島田空襲 明日までつづく物語」を披露しました。(一部紹介)



「語り継ぎ部」となった高校生たちの行動に、共感と感動の感想が寄せられました。平和行進はこの後、吉田町にある大石又七さんのお墓に献花し、5月31日まで静岡県内を行進し、愛知県に引き継がれ、8月4日の広島まで続きます。